Column

エネルギーの源 ㊵

「風車はメディアである」

一般社団法人 洸楓座
一般社団法人 efco. jp
代表理事 佐藤 建吉

▼メディアとインフォメーション

今回は「風車はメディアである」との話題について述べる。

「メディア」は媒体と呼ばれているが、何か（A）と何か（B）の間で何か（C）を、媒介する方法や手段としての何か（D）であるといえる。すなわち、何か（A、B）は送り手と受け手であり、何か（C）は対象物であり、何か（D）が「メディア」である。何か（C）は、情報に相当する場合もある。「情報」という日本語は、数多くの外来語を広めた森鴎外による翻訳語であるという。ドイツ語のInformation（インフォルマティオン）の訳らしいが、「敵情を報知する」から「情報」となったという。

▼メディアのカタチ

メディアとしての何か（D）には、極めて個人的方法としての〝プライベートメディア〟もあれば、世界中に同時に発送受信できる〝ソーシアルメディア〟もある。「マスメディア」は、新聞や放送が代表で、映画やビデオ、本・雑誌などもこの範疇であるが、最近では、インタネットやSNSの力が大きい。写真や音楽、そして彫刻などの作品も、何か（C）を伝えるメディア＝何か（D）といえる。

著者は書店や映画館、公演会場や展示場などもメディアであると考えている。例えば、大きな書店にある「エネルギー」の書籍コーナーでは、最近のその出版傾向がよくわかる。パブリック・アートも、多くの人に年月を超え、何か（C）を伝えることができる存在で、メディア＝何か（D）である。

▼「風車はメディアである」

風は時代を表わす代名詞とみることができる。時代のトレンド、変革、あるいは世相を表現する新聞などの見出しに、「風」という文字が当てられることが多い。「新風」、「西論風発」、「風の響き」、「風の…」という具合である。風は、時代の新しい息吹を伝える主役と言えよう。したがって、「風はメディアである」といえる。

メディア、風、風車、風力発電などの関わりから、著者は「風車はメディアである」というフレーズを見出した。風車は、風があると回転し、風向きにより羽根車の向きも変わり、風が止むと回転をやめる。風車は、風の流れや強さ、その大切さを伝え見える化するメディアであると考えたからである。

2003年に遡るが、著者は、千葉大学で「風車の技術と歴史」という講義を15週にわたり行っていた。その講義で、「風車はメディアである」というフレーズについて小論文として受講生に課した。その回答結果などをまとめ、日本風力エネルギー学会（当時は協会）のシンポジウムで講演した。

▼学生の意見

以下、当時の学生の回答の一部を掲げる。

「…テレビや雑誌に風車が載っていることだけがメディアではないと思う。風車が地域住民に愛され、地域の中で生かされることが『風車はメディアである』ことの証明であるとわたしは考える。…よって私は『風車はメディアである』という考えに賛成である」（看護学科・1年・女子）

「…風車とは、各メディアに多数登場するだけでなく、人々に大きな興味、関心を抱かせるものであることがわかると思う。よって私はメディアであるとことに賛成である」（画像工学科・2年・男子）

「…今では風車は風力発電として、クリーンエネルギーの代表として存在している。…だからこそ私は風力発電を通して風車が媒介しているもの、伝えているものは『地球』そのものだと考える。ゆえに『風車はメディアである』ということに私は賛成するのである」（地球科学科・3年・女子）

「…私は自分なりに『未来に美しい地球があり続ける可能性を残すもの、媒体』と解釈した。…粉ひき風車は我々に美しい風景とそれから得られる安らぎをもたらしてくれる。だがそれだけでメディアというのは少々足らずな気がする。〝観賞用〟風車は遺跡などと同じで、過去に対する憧憬や興味・関心、安らぎを与えてくれるが、未来に対して可能性を与えてくれるわけではない。よって〝観賞用〟風車はメディアとは言えない、と私は考えた。…今後の発電用風車、とりわけ洋上風車の可能性を考慮すると、発電風車は未来に可能性を与えてくれるのでメディアであると思う」（医学科・1年・女子）

「…つまり風車とは現在に未来の可能性を伝えるメディアなのだ。未来の可能性をより多くの人が意識し、共有すればおのずとその未来は現実のものとなるはずだ。…風車は人々に明るい未来を現在に示すことのできる数少ないメディアであると私は考えます」（デザイン工学科・1年・男子）

「…風車はメディアです。それは未来を伝える未来を運ぶ手段としての〝media〟であると私は考えます」（情報画像工学科・3年・男子）

「…メディアとは人々に何かを伝えるための媒体であると考えている。それでは、風車は人々に何を伝えているというのか。風車がどのよう歴史を持ち、どんな働きをしているか、純粋に興味があったからである。分野の違う勉強をしている者に存在をアッピールし、興味を抱かせる風車の外見というものも、十分メディアとして働いているのではないか」（養護教諭養成課程・2年・女子）

「風車は、…歴史を保存する記憶装置、つまり『情報を保存する外部記憶装置の媒体』である。…『風車はメディアである』といえると思う。そう考えると、風車は日々私たちに『情報』を発信し続けていることになろう。しかし、この『情報』に気づくひとが少ないのは、この『情報』は意識してアンテナを張っていないとキャッチできない、気がつかないものだからだと思う。もう少しアンテナを成長させて、この『情報』をつかみたい、つかまねばと感じた」（電子機械工学科・1年・男子）

「風車はまちのランドマークとしての視認性が非常に高い。…風車には、エネルギー供給の源としてエネルギーの流れを人々に示す役割を担えるのではないだろうか。…今後は風車をメディアとしてどう仕立て上げていくかが課題となるのではないだろうか」（都市環境システム学科・4年・女子）

以上、ここに挙げたもの以外も含め、概ねが肯定という意見であった。

▼風車の持つメディア性…社会的背景

このフレーズは、大方の学生や学会員の理解を得たと思う。

当時、著者が考えていたのは、時代や社会に対するメッセージの伝達者、発信者《何か（A）》としての風車《何か（C）と（D）》の役割や位置づけである。風車《何か（D）》がメディアであるとの背景には、風車自身《何か（C）》が持つ発言力、表現力、描画性、活動力、自己努力、協調性等のプラスイメージが高いポイントであるためと考えられる。

こうして、メディアとして存在しうる条件は、情報の種類、さらに質と量、そしてそれを受け入れる社会、つまりは送り手であり受け手である人間の、成熟した価値概念や土壌基盤が必要である。あるいは、そのために活用していく必要があるだろう。

いま、次のフレーズを広めたい。「風力発電はメディアである」。自然の中で回転する風車の姿こそが、エネルギーの大切さを伝えるメディアであると考える。

▶学生と製作した、小型風車を装備するクロスゲート。設置された千葉大学工学部キャンパスで、小池百合子氏と筆者